メガ・スポーツイベントが開催地域住民にもたらすポジティブな社会効果と定住意向の関係性
～2010 年広州アジア競技大会を中心に～

スポーツビジネス研究領域
5019A033－6　JIAO,Jian　　研究指導教員：原田　宗彦　教授

［問題と目的］

メガ・スポーツイベントは、開催地域に大きな経済、社会、環境的利益をもたらし、開催地域住民の意識にも大きな影響を与える(Fredline, 2005；Liu, 2009)。現在、大規模な祭りやイベントに対する住民の意識に関する研究文献は豊富であるが、研究方法の視点から見ると、ほとんどは縦断的研究で、メガ・スポーツイベントのさまざまな期間における住民の意識の変化を調査することに焦点を当てていたが、横断的研究が少ない。また、木俵・鳥澤・是津 (2014)は横断的研究より社会の動きを深く分析できることを指摘した。

2010 年広州アジア競技大会は、会場の建設やイベントの開催中に政府主導の伝統的な運営モデルを改め、スポーツ活動への住民参加を促進したことで、広州市は住民からの高評価を得ることもできた(Zhuang, 2011)。したがって、本研究は 2010 年広州アジア競技大会が開催地域住民にもたらす効果（Tan & Fu, 2012)という研究結果の中でポジティブな社会効果を選ばれた。また、先行研究の中で、他のメガ・スポーツイベントが開催地域住民にもたらす社会効果を一つ選ばれ、合計 6 因子 29 項目で仮説を立て検証を行うこととした。

仮説 1　2010 年広州アジア競技大会が開催 10 年後に、「インフラ安全」、「学習」、「アイデンティティーの確立」、「地域連帯」、「スポーツ関連」、「態度」という 6 方面から住民にポジティブな社会効果をもたらす。

仮説 2　2010 年広州アジア競技大会が住民にもたらすポジティブな社会効果は住民の定住意向に影響を与える。

［研究方法］

本研究は仮設モデルを中心に、広州市に住んでいる 10 年以上の住民に対して、オンラインアンケートで予備調査を行った。主な分析方法は SPSS を用いて、探索的因子分析を行った。「住民の QOL の向上」、「国際文化交流の促進」、「住民としてのアイデンティティーの確立」、「住民の凝集力の向上」、「スポーツや運動への興味促進」、「興奮や感情の獲得」という 6 因子、29 項目で適合度が高い因子と項目を選ばれた上で、本調査を行って、共分散構造分析方法で分析したいと考えられる。

［結果］

探索的因子分析から、2010 年広州アジア競技大会が住民にもたらす社会効果に関しては、「住民の QOL の向上」、「国際文化交流の促進」、「住民としてのアイデンティティーの確立」、「住民の凝集力の向上」、「スポーツや運動への興味促進」、「興奮や感情の獲得」という6つの潜在変数から構成されたことになる。そこで、各項目の内容を考量し、6 つの因子のそれぞれに高く負荷する項目を選定し、合計 21 項目になった。

なお、各因子の信頼性については、クローンバックのα係数による内部整合性を検討した結果、「住民の QOL の向上」(α＝0.88)，「国際文化交流の促進」(α＝0.88)，「住民としてのアイデンティティーの確立」(α＝0.84)，「住民の凝集力の向上」(α＝0.89)，「スポーツや運動への興味促進」(α＝0.93)，「興奮や感情の獲得」(α＝0.89)。ここで、全ての α 係数が共に 0.80 以上となったため、信頼性は高い。しかし、予備調査のサンプル数(n=112)が少ないから、本調査の時より詳しく検討することが今後の課

題になっていると考えられた。

そして、本調査は予備調査の結果から、6因子についてそれぞれ解釈し、命名した。その上で、新たに広州市住民に対してオンラインアンケート調査を行った。分析方法は共分散構造分析にて検証して、パスモデルを作成した。共分散構造分析の結果は以下の図 1 のように示されている。パスモデルの分析結果から得られた主な適合度指標の値を見ると、カイ 2 乗値は 243.68 であり、自由度は 210、確率水準は 0.08>0.05 のため保留され、モデルの適合性が認められた。

[考察]

今回の 2010 年広州アジア競技大会が住民にもたらすポジティブな社会効果と定住意向の関係性に関する調査の結果から、「2010 年広州アジア競技大会が住民にもたらすポジティブな社会効果」は「定住意向」にかなり強い影響を与えていることが検証できた。

しかし、今回の調査だけで、共分散構造分析のすべてが分析できたわけではない。今回の調査は新型コロナの影響で、全ての調査はオンラインアンケート調査によるもので、その被調査者の年齢、職業などによって、誤差が生じる可能性を否定できない。また、調査方法にはアンケート形式であるから、ほかの調査方法によって、結果がかなり異なっているかもしれない。さらに、定住意向は地域愛着の一つの尺度であるから、メガ・スポーツイベントが開催地域住民にもたらす社会効果と地域愛着の関係性もある可能性が高いと考えられる。今後、インタビューのようなほかの研究方法で調査を行い、その上で、メガ・スポーツイベントが開催地域住民にもたらす社会効果と住民への地域愛着の関係性について研究していきたいと考えている。

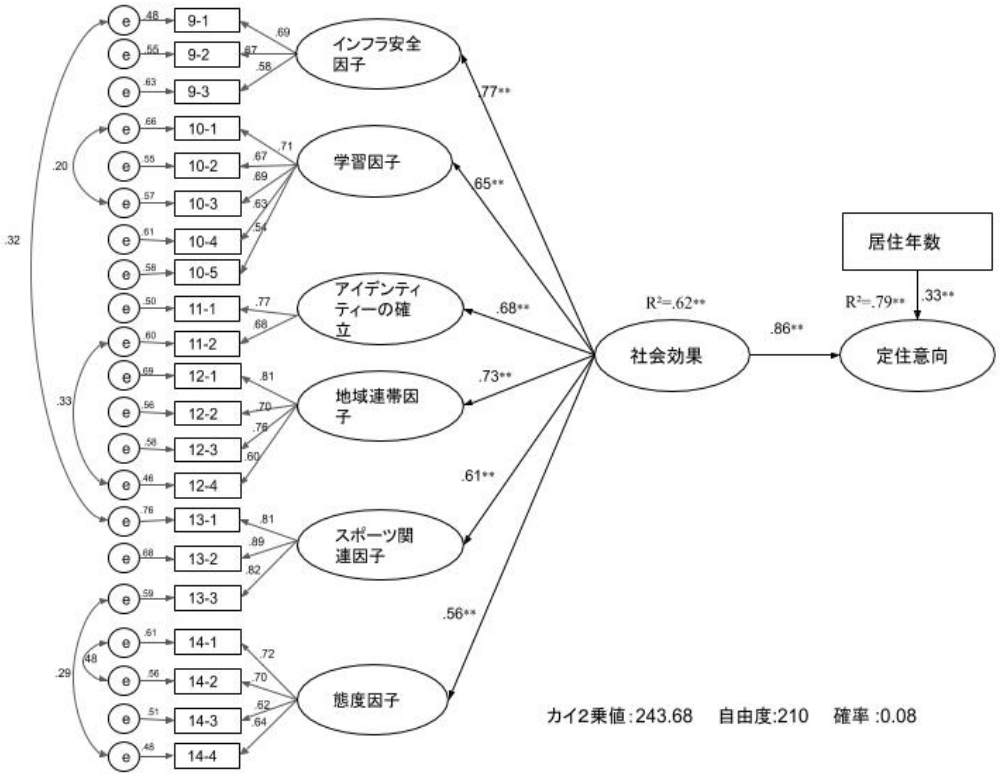

図 1 共分散構造分析の結果